

## 第4回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 次第

平成18年11月9日(木) 19時～21時

於：シビックセンター2101・2102 会議室

1. 開会あいさつ

2. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について

【資料8】【資料9】【資料7-2】

3. 調査について【資料10】【資料11】

4. その他

### 配布資料一覧

- (1)文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題の整理【資料7-2】(再出)
- (2)文京区保育ビジョン策定検討委員会ワーキンググループメンバー表【資料8】
- (3)文京区保育ビジョン策定検討委員会ワーキング議事要旨【資料9】
- (4)子育て中の区民を対象としたアンケート調査票【資料10】
- (5)文京区立保育園保育士を対象としたアンケート調査票【資料11】

## 文京区保育ビジョン策定検討委員会 ワーキンググループ メンバー表

(敬称略)

	委 員 名						
1グループ	大川 米子	飯田 恭	安達 陽子	紀野 美重子	高橋 修平	久武 昌人	森 吉弘
2グループ	佐々木 陽穂	深谷 純子	高橋 万由美	藤田 くる美	高橋 修平	久武 昌人	森 吉弘
3グループ	安江 とも子	小林 大作	大角 保廣	根岸 かをる	高橋 修平	久武 昌人	森 吉弘
4グループ	小林 信男	菅原 良次	吉田 シズ子	久武 昌人	高橋 修平	森 吉弘	飯田 恭

## 文京区保育ビジョン策定検討委員会 ワーキング議事要旨

### 第1グループ（子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児の保障）

平成18年11月6日(月)19時～21時

於：シビックセンター シルバーホール

出席者

大川米子委員、飯田恭委員、安達陽子委員、高橋修平委員、久武昌人委員代理

○視点

- ・子どもの育ちを中心に考える。
- ・親も子どももみんな余裕がない、ギスギスした関係。
- ・親のためのサービス←→本当に子どものためになっているかを検証する。
- ・サービスを充実させるほど、親の育児をスポイルさせる→子どものためにならない。
- ・保育の問題は保育園や特定の問題ではない、文京区全体の問題。
- ・文京区全体の問題であることを知られていないのでは。
- ・子どもは宝、子どもをコストとして考えるべきではない。
- ・関連する方々との協力。

○地域環境

- ・歩道が狭い、ベビーカーを押して通れるように。
- ・乳児が外遊びできる場づくり。
- ・異世代との交流、異年齢との遊び。
- ・朗読の会の人を活用した図書館の読み聞かせ。
- ・通園時間帯等の道路の安全性の確保、自転車のマナー。
- ・たばこをすいながら歩いている人が多い。
- ・子育てしている親が交流したり情報交換をできる場が地域にあるとよい。

○保育園

- ・保育園出身者と幼稚園出身者の間にある社会的偏見。
- ・保育園のもつ子どもにとってのよい機能をもっとPRを。
- ・保育園における保育の充実－文京区における保育水準は高い。
- ・保育士と保護者の信頼関係の維持・醸成。
- ・保育園保護者が主張、文京区の保育園のよさを知っているから。
- ・保護者・保育士だけが自己の利益のための主張をしているとの誤解。
- ・地域的には保育園が偏在。
- ・需要に対して供給が追いついていない。
- ・父母会活動の充実。
- ・兄弟姉妹が同一園に行けない場合もある。

- ・地域にねざした保育園。
- ・保育園に通わせている家庭（子ども・保護者）は手厚く処遇されていることの認識。
- ・出生率は保育園通園家庭の方がはるかに高い・・・産みやすさ。
- ・保育園に通っていない親と子どもにどのように手厚い処遇するか？
- ・入っていきづらい、入れない方々。

#### ○子どもの育ち

- ・親育ち・子育て：基本的な生活習慣、生活知識、生きる力の醸成。
- ・子どもの生活力、基本的な力を伸ばす←→知識の偏重にならない。

#### ○男女協働参画

- ・父親の積極的子育て参加。
- ・父親を育児に巻き込みやすい環境づくり。

#### ○子育てに関する情報

- ・保育や子育てに関する情報紙。
- ・子育て・保育に関する情報の一元化。
- ・行政、保護者、その他の一般区民の協力関係→発信。

#### ○調査

- ・生活実態、意識に関する実態調査で、子育て、子育ての生の姿をあぶりだす。
- ・実態調査をする時間が今はない→スペックを決めて毎年実施することはできないか。
- ・なぜコストを削減しなければならないか、納得感の欠如。
- ・5本目の柱として提案：アンケート→政策→評価のPDCAサイクル：区民の生活・子の育ちの向上のために。

## 第2グループ（子育て・親育ちの支援）

平成18年10月31日(火)14時～16時  
於：シビックセンター 地域振興会議室

出席者

佐々木陽徳委員、深谷純子委員、高橋修平委員、久武昌人委員代理、藤田くる美委員

### ○検討する上での視点

- ・子育て・親育ちの支援、というと、大人の視点に立ちすぎ、子どもの育ちを無視してしまう。
- ・保育園であっても在宅であっても、「子どもの幸せ、子どもの育ち」を大前提とする視点を忘れてはならない。そうしないと、親よりのサービスに偏ってしまう危険がある。
- ・子どもの視点に立つと、親子の絆、つながりが一番大事。
- ・子どもにとっては母親が一番。母親がよりよい子育てができるように、信用できる質の高い支援があり、ストレスを発散できたり、ガス抜きできることが重要。
- ・ビジョンということは一本筋がないといけない。個々の支援を考えたときに、親の子育て支援、子どもの育ちの視点、どちらに重点をおくのか。子どもの育ちということを中心に考えた上で、親への支援を考える。

### ○全体論

- ・子育て・親育ちの支援とうい大きな枠を包含するようなテーマを考えると、ネットワーク、地域資源を活用した支援のあり方とアクセスのあり方、は総論にあたるのでは。
- ・(2) 在宅での子育て支援については、保育園等を利用しない、家で子育てをしている家庭ということではなく、広く、就労していようがいまいが、家庭内での子育てへの支援と考えてはどうか。
- ・保育は、保育園での保育ということだけでなく、子育てと考えた方がよい。
- ・在宅を(1)にして、要配慮児童への支援を(2)にしてはどうか。

### ○キーワード

#### ◆産褥期の支援

- ・生んで3か月くらい。子育てのノウハウがなく、慣れるまでが大変なので。

#### ◆2人目を妊娠したときからの支援

- ・2人目がお腹にいるときから支援が必要。
- ・保育園が別になる、核家族では養育が大変。

#### ◆本当に支援が必要な家庭への支援

- ・家庭でひとりで子育てをしていて、どこにも出ないで、相談もできなくてという、本当に支援が必要な人がいる。そこをどうするかが重要。
- ・どうピックアップするか。4ヶ月健診等の場（保健所）。
- ・健診を土曜日の保育園でするなど。そうすればカウンセリングもできる。
- ・小児科で、看護師からの事前のカウンセリングがあるとよい。相談やガス抜きにもつながる。
- ・保健センターからの積極的なアプローチが必要（文京区の保健師はフットワークが軽く、機能している）。

◆問題のある（になりそうな）家庭を早めに見つけて対応

- ・ネグレクトなどについて、予防の視点が重要。
- ・地域のネットワーク、地域に見守る眼が必要。
- ・制度、サービスのPRが必要。広報が届いているかのフォローアップ、周知度の調査等が必要。

◆町内会などの地域の団体の活性化

- ・町内会等に民生委員のノウハウを提供したりトレーニングするなどして、地域を見守る役割を与えてはどうか。

◆在宅で気軽に預けられるベビーシッター制度

- ・ファミリーサポートは機能していない。提供会員が少ないし、毎回面接が必要など使いづらい。
- ・民間だと2000円/時間で3時間単位。1回6000円かかるが、資格あるので相談にも乗ってくれる。
- ・有資格で現在は働いていない人を活用して、半官半民型の、ファミリーサポートよりはきちんとしたものができるか。
- ・ぴよぴよひろばの一時預かりがもう少し質が高いとよい。
- ・人と質の問題が課題。それなりの報酬が必要。区が一部補助することも考えられる。
- ・必ずしも有資格でなくても、経験者を活用できればよい。ボランティアということではなく。
- ・行って預けるのではなく、来てくれる、ということも重要。
- ・産褥期ヘルパーがあるといい。1年間の利用に制限をつけてサポートしてくれるとよい。
- ・女性の雇用を確保するためにも、区民を活用できるようにしたらよい。

◆就学前の子どもの遊び場の確保

- ・子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展する。
- ・文京区は空き地なく、交通量も多くて道路では遊ばせられない。子どもが外遊びできる場のインフラの整備が必要。
- ・文京区は児童遊園が多く、小さいのに遊具が邪魔。小さい公園は小さい子が遊びやすい公園に作り直してはどうか。在宅の子どもが遊べる場づくり。

◆異年齢が遊べる環境・しくみ

- ・しくみがあってはじめてできるので、しくみが必要。
- ・浦安市の運動公園や立川の昭和記念公園などの遊具が参考になる。小さなスペースでも活用できる。インフラの整備が必要。
- ・親同士の関係があることが、異年齢の子どもが仲良く遊ぶことにつながる。ネットワークづくりが重要なのでは。
- ・公園、集会所において、親同士が交流できて、親が子どもを安心して遊ばせられるハード・ソフトが必要。

◆公園のハードの整備

- ・公園を月2回、地域の子どもと親がいっしょに清掃会する、というものがあれば、公園を大事にするという感覚が芽生える。
- ・そこに掲示があれば、情報交換もできる。

#### ◆基準、ガイドラインの作成

- ・行政が責任をもってやるガイドラインをつくる、ということをビジョンに盛り込みたい。設置基準、行動目標でもよい。
- ・フィンランドは基準に関して先進国。海外の事例も参考になる。
- ・目標があるかないかは大きい。個々の施策は、行動目標に対してハードルを落としたものになるかもしれないが。

#### ◆区の子育てに関する窓口の一本化

- ・子育てに関する情報がいろいろな課にまたがっている。使う側からすればみんな区の設備なので、子どもを中心とした情報は一元化してほしい。
- ・子ども課をつくり、区民が行く窓口を一本化してほしい。
- ・子どものことならここにいけば、ということが必要。

#### ◆情報の活用、IT化、システムの向上

- ・子育て世代は携帯で情報交換している。情報源としてウェブを活用している。
- ・安心メールなどのよいシステムの拡充が必要。
- ・電子媒体をもっと活用する努力が必要。しくみが必要。
- ・子育てマップは情報が集まっていた。あの手の情報の集約が必要。ウェブでみられれば、いつでも情報にアクセスできる。
- ・ホームページを充実させて、区で作っているものをもっとだれでもアクセスできるようにすべき。

#### ◆予防接種の補助

- ・おたふくやインフルエンザの予防接種は自費で補助がない。
- ・病気になると親は大変。補助することによって親の支援になる。子どもの健康にもつながる。予防接種の補助の拡充を。

#### ○アンケートについて

- ・委員のネットワークを活用し調査をする。ヒアリングにもつなげられるよう、紙媒体で調査する。
- ・その他、小児科、保健所での定期健診、緊急一時保育所、ぴよぴよひろば等での調査を検討。

#### ○その他（ビジョン策定に必要な資料）

- ・文京区は子育て世代の移住が増えている。子どもが集中している地域とそうでない地域がある。そういった実態を把握した上で、施策を決めていく必要がある。
- ・ビジョンを論じる前提として、実態を把握する必要がある。
- ・地域ごとの人口の状況や施設へのアクセシビリティ、歩道の少ない場所の状況を地図に落としこむ方法があるので、区に資料提供をしてほしい。

### 第3グループ（親の就労・多様な生き方の支援）

平成18年11月7日（火）18時～21時  
於：シビックセンター 地域振興会議室

出席者

高橋修平委員、久武昌人委員、安江とも子委員、小林大作委員、大角保廣委員、根岸かをる委員

○視点

- ・子どもの生活にあった働き方をどう考えるか。長く保育園に預けられれば良いというものではない。
- ・子どもの生活を中心に労働を考える。
- ・親子の団欒をもてるような働き方ができる社会が望ましい。
- ・企業社会における働き方の見直し。
- ・どこをめざすのか？
  - ①お金をかける（北欧・仏） ②企業に義務（独） ③フレキシブルな労働市場（米）
- ・文京区は共働き世帯が多い→就労支援が子育て世帯の定住につながる。

○企業による取り組みへの支援

- ・中小企業への子育て支援施策の充実。
- ・長時間労働をどう払拭するかーワーク・ライフ・バランス。
- ・子育てをしている人が働きやすい環境をつくるのが企業の利益につながることをどんどんPR（情報提供）すべき。
- ・企業は利益がないと子育て中の人を雇わない。障害者雇用のようにしほりをつけることも必要。
- ・育児休業に取り組んでいる企業に補助金といったインセンティブ。
- ・入札制度で優遇制度を設ける。
- ・先進的な取り組みをしている事業所に対して税制面の優遇等のインセンティブ。
- ・先進的な取り組みをしている事業所を表彰する。
- ・先進企業の文京区独自の認定制度。
- ・文京区の既存の取り組み：中小企業向け融資あっせん制度（次世代育成支援行動計画を作成した場合等に）。
- ・大企業ばかりでなく、大変な中でも取り組んでいる事例も救い上げることが重要。
- ・企業の取り組みをどう応援し、どうほめるか。しほりをつけることも必要だが。
- ・金銭的な支援と情報提供両面からの取り組みが必要。
- ・文京区ならではの取り組みづくり→23区全体への取り組みへ。
- ・国の助成金等の制度が知られていない。知らせる取り組みが必要（インターネットによるアクセス保障を含めて）。
- ・特区申請も可能。

○男女が協働して子育てをする意識

- ・男女が協働して子育てをすることができる条件を社会的に整える。
- ・男性が育児に参加すること、男性の意識改革。
- ・長時間労働の中で、男性が子育てに参加する余裕があるか。
- ・男女の役割分担的考えの払拭、どう意識を改革していくか。



- ・意識の改革→啓発事業的なものしかできないのでは→まずは理想を高く掲げてスタートすべき。

#### ○保育園の充実

- ・働く場での工夫には限界、受け入れる場がなければそもそも働けない。
- ・育児休業後の保育園の入園予約制度。
- ・年度末まで育児休業を取得できる企業もある（ベネッセ）。
- ・入所基準のあり方（就職していなくても入れる等）の検討、保育園利用枠の拡大。
- ・保育所全入体制（例：フランス）や文京区独自の創設してもよいはず。
- ・需要に対して施設が足りない→どれだけ足りないか把握できていない。
- ・潜在的な保育園ニーズが多いのでは。働きたいという保護者は増えている。  
⇒潜在的な労働意欲、労働力を削っている。

#### ○保育園の質

- ・子どもの生活力を育てる場としての保育園の価値。
- ・社会的なインフラとして、立派な大人を育てる保育園。
- ・文京区の保育は質・満足度が高い。
- ・職員が減少する中で、研修をする余裕のあるシフト体制にない。
- ・余裕のなさが親とのコミュニケーションや保育に影響している面がある。
- ・親の長時間労働により保育時間が長くなっている→親とコミュニケーションをとる時間が減っている。

#### ○地域のネットワーク

- ・地域のネットワークが弱っている。地域の人々の意味あるネットワークをどうつくるか？
- ・民生委員、町会など従来からのネットワークに限界→ネットワーク、ボランティア等の再組織。
- ・団塊の世代をターゲットにしたネットワークづくり。
- ・役所主導にはなじまない、→触媒作用を果たすことはできる。
- ・子育てサロン等、地域資源を活用した取り組みの拡充。
- ・隣人・地区にどんな人がいるかわからない。町会・民生委員も活動しにくい。
- ・制度が知られていない（民生委員、NPO、ボランティアなど）。

#### ○子育て支援サービス

- ・ファミリーサポート制度が中途半端。ベビーシッターサービスが必要。
- ・ファミリーサポート制度：社会福祉協議会による運営＝サービスを提供する側と受ける側のミスマッチに対して区が介入できない。
- ・残業、出張時の保育サポート。
- ・働いていない母親同士が集まって情報交換できる場、子どもが集う場として子育てひろばの拡充、積極的な運用。
- ・子育てひろばのように登録制だと安心感がある（公園デビューは入りにくい）。
- ・緊急一時保育は子育て相談という側面も強い。専業主婦が身近に相談できる場が必要。現状では保育園がその機能を果たすことは困難。
- ・働いていない人も息抜きで預けられる一時保育の機能→子育てで行き詰ってしまわないように。

## ○総括

### ①企業に対して

- ・義務を課すだけでなくどうインセンティブを与えていくかが重要。
- ・男女の役割分担をどう払拭するかという問題もある。根本的な対策はないかもしれないが、意識の啓発といったものからはじめていってもよいのでは。
- ・企業のシステム、国の制度、住民の価値観が絡んでいるのでがらっとは変わらないが、じわじわ変えていくことはできるのではないか。

### ②働く場での工夫には限界がある

- ・受け入れる場がないと働けない。潜在的に働きたい保護者は増えているのに、受け入れる場がない。→保育所全入体制など、文京区独自の取り組みがあってもよい。
- ・保育需要が把握できていないという問題もある。人口動態の把握が必要。

### ③もっと広い目でみると

- ・保育園に通わせていない親御さんも困っている。子育てひろばなどの拡充が考えられるのではないかな？
- ・草の根レベルでは、民生委員、町会を含めた地域ぐるみのネットワークをどうするか、という問題があって、そこを再組織していくことが必要。根本には、隣人・地区にどんな人がいるかわからない、民生委員なども活動しにくくなっている現状がある。ここを動かすするには、役所主導はなじまないが、触媒作用を果たすことはできる。民と協働でやっていけばよいのでは。

### ④取り組みの方向性としては？

- ・①お金をかけて制度を充実させる、②企業に義務を課す、③フレキシブルな労働市場に任せる、という考え方があるが、子どもの育ち・子育て支援に金をかけること以上に重要なことはあるか？とすると、もっと予算的な裏づけがあつてしかるべきでは→保育園のサービスの充実を。
- ・制度が知られていない、という問題もある。サービスメニュー、保育所の機能など。広報・啓発、ワンストップで子育てに関連する情報が取れるものが必要。必要な人に必要な情報が届くように。
- ・子の育ちという視点は基本だが、親の支援も必要なので、そこはどうかバランスをとっていくかの問題。よりよい子育てができるように、という視点からの親支援。

## 第4グループ（保育機能の中核としての保育所）

平成18年11月2日(木)18時45分～21時  
於：シビックセンター 4階会議室B

出席者

小林信男委員、菅原良次委員、飯田恭委員、久武昌人委員、吉田シズ子委員

### ○主要テーマ

- ・保育園の機能（役割）の明確化とそれをどう拡張していくか。
- ・幼稚園、保育園にとらわれず、就学前の子どもの育ちをどう考えるかが重要。

### ○在園児に対する保育・教育内容

- ・規則正しい生活の確保、食生活習慣、先生や友だちとのふれあい。
- ・きょうだいの少ない家庭の子どもも異年齢間のふれあいを実体験。
- ・生活に根ざした保育園ならではの育みの価値の再確認。
- ・伝統的な遊び、文化の継承。
- ・保育園の子育て支援（保育）の機能と子どもの育ち（教育）の機能の明確化。
- ・延長保育、産休明け保育、夜間保育、休日保育等、就労を支援するための新たな保育ニーズへの対応。

### ○地域の子育て支援

- ・緊急保育、一時保育、園長相談（子育て相談）等の機能の整備。
- ・園庭開放など場の開放。
- ・新たに区民となった人が定住し、子どもが育っていく地域をどうつくっていくかという視点。
- ・保育機能の地域への還元。
- ・保育園の家庭支援機能。地域全体の子育て支援ネットワークの中心となる機能の明確化。保育園のもつノウハウの活用、機能をどうつなげるかと、そこでの保育園の役割。
- ・退職者などの活用
- ・住民の理解と支持を得て、地域の中にある保育園として、世代・団体の枠を超えた取り組み

### ○保育を担う人・体制づくり

- ・保育の質の継承が必要（先生方のスキル継承）。
- ・保育園の機能（魅力）をもっと社会に知らせる必要がある。
- ・保育士の専門性をどう高めていくか。ネットワークでの役割を果たすことが重要。その場をつくるのが管理者の役割。
- ・保育士の自己研鑽で保育のレベルも変わる。公立、私立、認証あわせて研修すること大事。

### ○地域の子育て力（教育力）の向上

- ・学生の保育体験学習。
- ・保健所との連携による離乳食づくり。
- ・市民も含めた保育園づくり。関係機関や地域の人（色々な世代）の力を借りながら運営する。

# 子育てしやすいまちってどんなところ？

あなたの体験談、ご意見をお聞かせください！

■ あなたについて教えてください。

・お住まいの地域	町名		丁目	・性別	・年齢	・職業									
・お子さんの年齢 当てはまる欄に人数記入	出産予定	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳～
(通園・通学状況)															

## 1. 子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)のはどういう時？

こどもを産むことを決心するときに、そして育てはじめて直面する問題は？

(うらにつづく)

## 2. 子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思いますか？

幼稚園・保育園のよいところ、理想の姿は？ 必要な公的補助、地域との関係は？

ご協力いただき、ありがとうございました。

【アンケートの回収について】ご回答いただいたアンケートは、同封の封筒で返送してください。

★お願い★ご記入いただいたアンケートの内容に関して、場合によっては改めて個別に・より具体的なお話を伺えればと考えております。差し支えなければ、お名前・ご連絡先をご記入下さい。  
(頂いた個人情報については取扱いに十分留意するとともに、文京区保育ビジョン策定検討に際しての資料としての目的以外に利用することはありません。)

お名前

---

ご住所

---

連絡先 電話

---

携帯

---

FAX

---

E-Mail

---

平成 18 年 10 月 30 日

文京区立保育園保育士の先生方へ

## アンケートへのご協力をお願い

去る 9 月に、文京区保育ビジョン策定検討委員会が設置され、文京区における保育のビジョンをつくり上げるための議論がはじまりました。

私は、区内本郷にある東京都認証保育所「なかよしの家保育園」の理事として、保育ビジョン策定検討委員会の委員を務めております。飯田恭と申します。

乳幼児期（0～5 歳）は、人生の基礎を築く上でとても大切な時期です。このかけがえのない時期の子育てを、大人の都合にあわせるのではなく、「子どもにとって、子どもの成長にとって、どのような子育てが望ましいか」を第一に考えた文京区保育ビジョンをつくりたいと考え、その実現のために努力するつもりでおります。

私たち大人がまず第一にすべきことは、子どもの成長にとって、ごくあたりまえだけど、とても大切な生活習慣・生活環境を整えてあげることであると思います。具体的には

- ① 基本的な生活のリズム（「早寝・早起き」→「朝食」→「十分な運動」→「早寝・早起き」・・・）
- ② 母乳保育を含めた、安全で自然な食事
- ③ 豊富な人間どうしのふれあい（他者の気持ちや意見をよく汲み取り、自分の気持ちや意見を他者に伝達するためのコミュニケーション能力や豊かな感性の獲得）

以上の三つの柱が子どもにとって大切なのだと思います。

この観点からすると、先生方をはじめ保育園職員の方々の多大なご尽力により、文京区立保育園に通っている子どもたちの保育園での生活はとても恵まれているといえるでしょう。けれど、家庭での生活はどうでしょうか。私は、「なかよしの家保育園」の理事であると同時に、「なかよしの家保育園」と「区立本郷保育園」に子どもを通わせる保護者でもあります。果たして、私たち保護者が本当に「子どもの育ち」を真剣に考え、子育ての主体である保護者として責任ある行動をとれているのか疑問に感じることもしばしばです。現に、各種の調査は、家庭において子どもたちに、大人の都合に合わせられることによる生活リズムの乱れ、乱れた食生活、親・きょうだい・友だちとのふれあいの乏しさ、電子メディアへの過度の依存、被虐待などといった問題がかなりの程度みられることを指摘しています。ゆえに私は、今回の文京区保育ビジョン策定が、私たち保護者が自らの「子育て」の姿勢を問い直すきっかけになることを切に望んでいるのです。

そこで、長年にわたり、毎日長時間子どもたちと接していらっしゃる保育園の先生方が、日ごろ、子どもたちの様子や家庭環境をどのように見、また感じていらっしゃるのか、ぜひ忌憚のないご意見を伺い、保育ビジョンに反映させたく、今回のアンケートをお願いする次第です。

さらに、委員会では、就労している保護者の家庭以外の子どもたちにとっての保育園の役割についても検討することになっています。この点について、実際に保育園で勤務していらっしゃる先生方がどのようなお考えをお持ちなのか、どのような可能性や問題点があると感じていらっしゃるのかについてもお教えいただき、「文京区の子どもたち全体の保育」についてのビジョンを策定する際の参考にさせていただけたら、と望んでおります。

毎日の勤務でお忙しい中、大変恐縮ですが、以上のような趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただけましたなら幸いに存じます。なお、アンケートの結果につきましては、私が、NPO 法人なかよしの家正会員などの協力を得つつ、責任をもって集約・分析して報告書にまとめ、文京区保育ビジョン策定検討委員会に提出する所存です。また、報告書にまとめられた「先生方の声」は、適宜、保育園の父母の会やその他公の場において、子育てのあり方を見つめ直すための材料として、有効に活用させていただきたいと思っております。なお、言うまでもないことですが、アンケートは、個人はもとより勤務先の保育園も特定できない形で行われます。忌憚のない率直なご意見をお寄せいただけましたなら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

文京区保育ビジョン策定検討委員会委員

飯田 恭

● 先生ご自身についてお伺いします。

(1) 先生の性別, ご年齢, 保育士歴をお教えてください。

性別: 男性 女性 (いずれかに○印をおつけください。)

ご年齢: ( )歳

保育士歴: ( )年

(2) 先生は現在クラスを担当されていますか。

はい いいえ (いずれかに○印をおつけください。)

(3) (2)で「はい」とお答えの方, 現在ご担当のクラスは何歳児クラスですか。

( )歳児

● 子どもたちについてお伺いします。

☆生活のリズムについて

(4) 子どもたちの「生活のリズム」について, 日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。該当する番号を選び, 右の□の中にご記入ください。

感じていない

1

...

少し感じている

2

—

感じている

3

—

とても感じている

4

(5) (4)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「生活のリズム」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。

( )

☆食生活について

(6) 子どもたちの「食生活」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。該当する番号を選び、右の□の中にご記入ください。

感じていない                  少し感じている                  感じている                  とても感じている

1                  …                  2                  —                  3                  —                  4

(7) (6)で 2, 3, 4 を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「食生活」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。

Large empty space for writing answers to question (7), enclosed in large parentheses.

☆人間どうしのふれあいについて

(8) 子どもたちの「友だちどうしのコミュニケーション」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。該当する番号を選び、右の□の中にご記入ください。

感じていない                  少し感じている                  感じている                  とても感じている

1                  …                  2                  —                  3                  —                  4



(9) (8)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「友だちどうしのコミュニケーション」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。

[ ]

(10) 子どもたちの「先生とのコミュニケーション」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。該当する番号を選び、右の□の中にご記入ください。

感じていない                  少し感じている                  感じている                  とても感じている                  □  
1                  …                  2                  —                  3                  —                  4

(11) (10)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「先生とのコミュニケーション」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。

[ ]

(12) 子どもたちの「家族とのコミュニケーション」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。該当する番号を選び、右の□の中にご記入ください。

感じていない                  少し感じている                  感じている                  とても感じている                  □  
1                  …                  2                  —                  3                  —                  4

- (13) (12)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします. 子どもたちの「家族とのコミュニケーション」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください.

**☆虐待について**

- (14) 「虐待」という観点から子どもたちを見て, 日ごろ感じている問題点があれば, ご自由にお書きください. ここでは「身体的虐待」だけでなく, 「保護の怠慢ないし拒否(ネグレクト)」や「心理的虐待」も含めてお答えください.

☆そのほか、子どもの生活習慣や生活環境について

(15) そのほか、子どもの生活習慣や生活環境について、日ごろ感じている問題点があれば、ご自由にお書きください。

● 保護者の態度・行動・子育て姿勢について

(16) 保護者の態度や行動で、先生方が毎日の保育をするうえで困ったことはありますか。あれば具体的にお書きください。

(17) 保護者の「子育て姿勢」で、子どもにとって問題だと感じることはありますか。あれば具体的にお書きください。

● 保育園の役割について

(18) 現在、保育園に子どもを預けている保護者が、「勤務時間外保育(就労以外の目的で、たとえば美容院に行ったり習い事をしたりするために子どもを預けること)」を望む場合があります。「勤務時間外保育」についてどのようにお考えですか。該当する事項に○印をつけたうえで、ご自由にご意見をお書きください。

賛成である

条件によっては賛成である

具体的に

反対である

どちらでもない

ご意見

(19) 現在, 保育園に子どもを預けている保護者が「夜間におよぶ長時間保育」を望む場合があります. 「夜間におよぶ長時間保育」についてどのようにお考えですか. 該当する事項に○印をつけたうえで, ご自由にご意見をお書きください.

賛成である

条件によっては賛成である

具体的に

反対である

どちらでもない

ご意見

(20) 保育園児以外の子どもを, 保育園で在園児と一緒に「緊急一時保育」や「一時保育」という形で預かることについて, 利点あるいは問題に感じるなどをご自由にお書きください.

(21) 保育園児以外の子どもの「緊急一時保育」や「一時保育」について、具体的にどのようにしたらよいとお考えですか。ご自由にお書きください。

(22) 幼保一元化施設「柳町子どもの森」のように、保育園児が日中の一定時間を幼稚園児と同じ施設内で過ごすことについて、利点あるいは問題を感じることを、ご自由にお書きください。

(23) 現在「認定子ども園」が作られようとしています。「認定子ども園」に対してなにかご意見があればご自由にお書きください。

(24) 保護者の就労などにより「保育に欠ける」子どもと、「保育に欠けていない」家庭の子どもがともに過ごす施設について、どのように思われますか。ご自由にご意見をお書きください。

(25) 現在の保育園が担っている「保育に欠ける」子どもの保育以外に、文京区全体の子どもの子育て支援について、保育園にはどのような可能性があるとお考えですか。ご自由にご意見をお書きください。

● その他

(26) これまでの質問とは別に、なにかご意見がございましたらご自由にお書きください。

以上です。ご協力どうもありがとうございました。